

私の学級経営

－ 40 年目の振り返り －

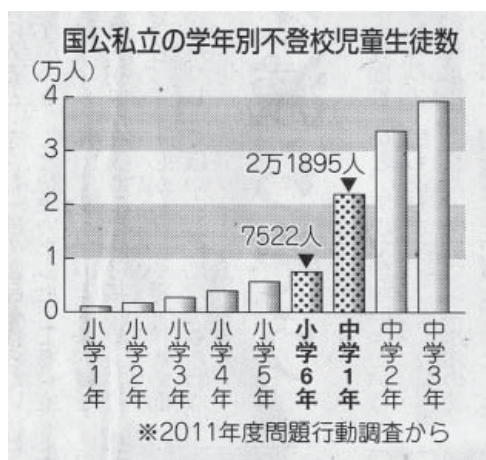
澤田 敏志

1 はじめに

2013年2月25日の神奈川新聞は、「教育Today」で「文科省は13年度予算案に、全国の教育委員会に委託する推進事業費など約4千万円を計上した。背景には、『中1ギャップ』と呼ばれる環境の変化などで起こる不登校やいじめなどの防止への期待がある。

同省が行う問題行動調査では、不登校の人数は小学校6年から中学校1年に進学した際に大幅に増える傾向がある。…」と報じ、続けて小中一貫教育の取り組みを示し、東京都三鷹市で不登校出現率が減少したこと、奈良市では9年生のほぼ全員が英検3級か準2級を取得したことを報じ、中1ギャップの克服と学力向上の施策として小中一貫教育の推進を取り上げた。

【資料①】



同紙に掲載された資料①によると、2011年度の中学1年の不登校生の数は、小学6年のそれに比較して2.9倍であり、中学1年生になると激増する傾向を示している。

そこで、私は40年前に出会った中学1年の生徒との記録をもとに、当時の生徒の協力も得て、改めて“学級づくり”について考察することを試みた。

2 土筆の会

私は1974（昭和49）年度、横浜市立蒔田中学校1年2組の学級担任を委嘱され、43名の生徒と学級を開いた。その後、1名が転出、2名が転入し、45名の生徒と時間を共有した。

蒔田中学校は、大岡川を挟んで、1年生は分校、2～3年生が本校という大変珍しい学校だった。分校は木造2階建ての校舎で、グラウンドと校舎の間には大きな公孫樹が並び、季節の移りが感じられた。本校は中央にスロープを設えた鉄筋コンクリートの堅牢な校舎で、グラウンドの他、新旧二つの体育館とプールを備えていた。

1年生は、授業によっては、橋を渡り、本校に移動して学んでいた。

このような学年分校という特殊な教育環境を是正するために、蒔田中学校校長の金子保雄先生が奔走され、彼らが3年生を迎える時期に横浜市立永田中学校が開校し、学年分校は廃止された。そこで、彼らは中学3年生から、蒔田中

学校と永田中学校の二つに分かれて学び、それぞれの進路を選んだ。

当時は、彼らとその後40年もお付き合いすることになるとは考えていなかった。“土筆の会”は、折に触れて発行していた学級通信の題名をとり、1年生の修了時に今後もレクリエーションや同級会を行うとして結成された。

彼らが高校を卒業する年齢の時に“土筆の会”を開く連絡を受け、横浜市営地下鉄蒔田駅近くの喫茶店で30数名に再会した。その後、テッカの愛称で呼ばれていた生徒が、1989(平成1)年4月に不慮の事故で亡くなってからは連絡を取り合って墓参するようになり、その都度、居酒屋で偲ぶ会を開いた。そうした中で幹事を自認する者が幹事会を開き、私も招かれて参加した。中学1年生のクラス会は珍しいといわれながら現在に至っている。

今回の報告では、40年前の取り組みから、『一日担任』を取り上げた。それは、朝の学活の時間にその日の一日の決意を述べることから始まり、自習の時間があれば、教科係と協力して課題を進め、昼食は前の教卓でみんなを観察しながら食べ、帰りの学活の時間に一日の反省や感想を述べる。そのことを感想記録ノートに記して次の人に回す。一日全員に気を配るという活動だった。その記録ノートを保管していたので、「4 一日担任」として全てを掲載した。

また、40年目の振り返りを作成するにあたって、2014年の幹事新年会に招かれた際、彼らに依頼し、後日、座談会を開いた。これを「5 40年目の振り返り(座談会)」として掲載した。

レポートの末尾には、1年生修了の文集『土筆』から写した「昭和49年度横浜市立蒔田中学校1年2組の主なできごと」に、生徒が保存していた印刷物から判明した活動

を加え、資料とした。

3 私が考える「学級」

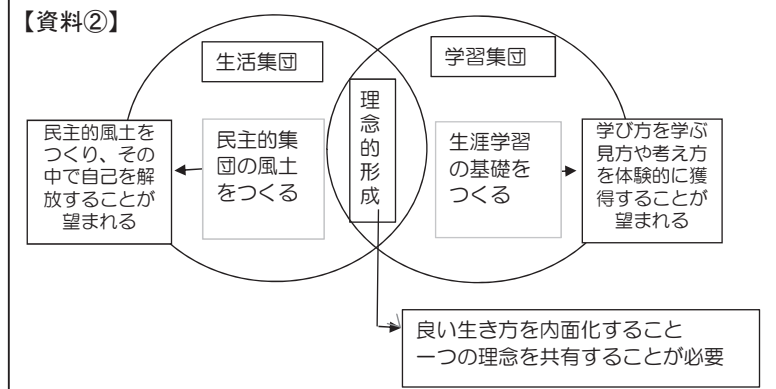
学級とは、学校において生徒が所属する集団で、一般的には、機械的に分割される所属集団が、さまざまな活動を通して帰属集団に進化するといわれている。

私は学級を運営するにあたって、学級が持つ二つの機能を重視してきた。一つは、学級を学習の場と捉え、生徒が互いに助け合って学習できるよう努めた。もう一つは、学級を生活の場と捉え、組織活動を通して民主的な解決方法を体験的に学べるよう努めた。この二つの機能が重なってこそ、生徒に良い生き方を内面化させることができると考えてきた。つまり、資料②に示したように、学級は、学習集団として生涯学習の基礎をつくり、生活集団として民主的集団の風土づくりに努めることで、生徒の内面に理念的形成が行われると考えている。それは経験を重ねるにつれて確信に変わった。

学級担任は、生徒に何を身に付けさせようとするのかを明らかにする必要がある。生徒の判断的行動を促すためには、目標を設定した理由を理解していることが基礎になる。安易に目標を達成させようとして、統制を強めれば、いわゆる防衛的風土をつくることになり、単に反射的行動を促すことになる。

学級担任として形式が一人歩きするような活

【資料②】



動は避けなければならない。従って、原因と結果を取り違えて、「すばらしい学級だから できる」を「できるようになれば すばらしい学級になる」としてはならないと考えてきた。

『一日担任』は、生徒が級友の姿を見つめ、素晴らしい学級とはどういう学級なのか、どうすれば素晴らしい学級にすることができるのかを自らに問う試みとして行った。

4 一日担任

二学期に入って、生徒の学校生活に中だるみ感が現れた頃を狙って、平常の係活動とは別に、一日だけ学級担任の仕事をしてみないかと誘い、実践に踏み切った。終了後に記録した感想を、誤字や脱字を訂正し、簡単な言葉は表記を漢字に直し、以下に示した。

【一日担任感想ノート】

10月1日（火） 松原 紀子

担任という仕事は、なんて大変なんだろう。たえずみんなのことを見ていなければならないし、学活の時間、話をしなければならぬ。お弁当の時間も前に出て食べたが、前に出るとみんなのことがよくわかった。

10月2日（水） 桜木 弘道

担任って、おもしろいがむずかしいことだと思った。みんなの前に立ってみると、一人一人の態度や性格がよくわかる。しかし、みんなの態度が悪くなっていくうちに、自分も気が重くなった。そして最後になってがっかり力が抜けたような気がした。だから、そこに担任という仕事のおもしろさがあると思った。

10月3日（木） 山崎 由美子

担任という仕事は、やりがいがあると同時にむずかしい仕事でもあると思った。ただ力で押さえてばかりでもしかたがないし、かといって優しくしてばかりいれば、だれもがやりたいほ

うだいにしてしまっ、だめなクラスになってしまう。また、そのクラスの生徒全員が担任の先生を手本とするので責任の重い仕事だと思った。

10月4日（金） 小川 隆行

担任の仕事をやって、みんなの前で見ていると、うるさくなる原因の人がはっきりとわかった。それから、清掃のときは、みんな協力してやってほしい。

10月5日（土） 池田 綾子

担任という立場になってつくづく担任って大変だなと思った。朝の学活の時、うまくやれるかなアーなどと思っているうちに4校時が終わり、帰りの学活となった。そして、私からの報告。「さよなら」といった時、重荷がやっとなくなったように思い、ホッとした気持ちになった。今日一日、担任をやってみて、とてもいい勉強になった。また、むずかしい仕事だとも思った。

10月6日（日） 平野 達夫

担任をやってみて大変だなと感じた。日曜授業参観であまり仕事をやらなかったが、学活の時間にみんなの前でなんて言っているのか考えてしまった。ただ感じたことは、大変だなということだけだ。

10月8日（火） 伴 久美子

担任になって、みんなのいろいろなところが少しだけわかったような気がする。私は、担任らしいことはできなかった。クラスの悪いことも良いこともいろいろわかった。担任ということは、いろいろめんどろで大変だと思った。

10月9日（水） 茂木 慎治

担任をやってみたが、どんなことをやればいいのか全然わからなかった。しかし、みんなの悪いところがわかった。美術のある日は、いつ

も食事を食べ始める時間がおそい。もっとみんなで協力すればいいと思った。音楽の時間、先生が来るまでがうるさい。国語や数学があんなに静かなのに、どうして静かにできないのだろうと思った。それなら、国語や数学の時間にもっと発言すればいいと思った。とにかく、全員の協力がたりなかった。

10月11日(金) 秋山 佐由理

担任という仕事をやってみて、どんなに大変なことかわかった。いくら大きな声を出してもみんな聞いてくれない。私はいつも学活の時間などしゃべっているのだからわからないが、今日、初めてわかった。室長や副室長が、いつも声がかれるほど注意している。もし全員が担任をやったら少しは静かになると思う。みんなを見ていると自分分かった。クラス全員が一つになって協力すればきっとできるだろう。

10月12日(土) 野辺田 正巳

担任という仕事は大変な仕事だと思った。やってみてわかったが、「静かにして」と大声を出しても、自習の時、わからない事を聞いたって、相談する人も大きな声でしゃべったりしてこまった。学活の時間、うるさい人などがよくわかるし、聞いていない人もよくわかった。そして、みんな授業の前がうるさくて、よく注意した。ぼくは、仕事はあまりしなかったが、いろいろなことがわかった。

10月14日(月) 高橋 秀実

私は最初、担任という仕事は簡単でなんでもないとかバカにしていたようだった。しかし仕事についてみて、本当に大変だなと身にしみてわかりました。常にみんなの行動を見ていなければいけないし、朝の学活、帰りの学活の時には、何かみんなのことについて話をしなければならぬからだ。でも一日しか担任としての仕事をしていないけれど、少しみんなの行動や担任としての仕事がわかったような気がします。

10月15日(火) 高田 敏昭

ぼくは今日一日担任になった。みんなの文を読んでみるとたいがい「担任という仕事はとてみたいへんに仕事だ」と書いてある。しかし、ぼくが思うに、担任なんて簡単で、ひまでくれない。現にうちのクラスをみていると学活の時間になると沢田先生がのそのそやってきて、いつものいすにすわっているではないか。そして担任の話になると週の予定や行事を知らせる。そして、弁当の時間がくると前の席でめしを食う。そのくりかえしではないか。ぼくはとてもくだらない仕事だと思う。しかし、今日一日、とても大変だった。

10月16日(水) 大貫 純子

私は担任になって1年2組の欠点がわかりました。前に日直の仕事をしていた時もわかってたことだが、担任になってもっとわかったことがあります。帰りの学活の時間がとてもうるさいことです。日直の人が一所懸命やっているのに、みんなはしらんぷりです。いつも私はその一員だと思うと、とても恥ずかしい気持ちです。そして、1年2組の人全員が担任という仕事をしたら、とてもすばらしいクラスになるのではないかと思います。

10月17日(木) 片吉 豊

ぼくが担任になって感じたことは、担任って大変だということと、学活の時間にみんな自分かたなことをしているということです。学活の時は、自分もそうなんだなあと思いました。

10月18日(金) 倉田 真智子

私は、担任をやってみて、なんて大変な仕事なんだと思った。前に出て見ているとみんなの中でいつもふざけている人がよく目立つ。あのようなことをしては、1年2組は絶対よくならないと思う。それにすごく学活の時間がうるさいと思った。1年2組の一人一人が、1年2組の欠点をわかればもっとももっとすごくよいクラス

スになるのではないかと思います。澤田先生は、担任として本当に大変だと思いました。

10月19日（土） 中村聖司

ぼくも担任という仕事を初めてやった。担任という仕事をやってみてわかったことは、学活の時間が特にうるさいし、後ろを向いて話している人がいて、いくら注意してもほとんどの人がバカにして注意をきいてくれなかった。これで担任という仕事が大変だったことがわかった。

10月21日（月） 花輪 志津子

1年2組の担任をやって、みんなの行動がよくわかった。放課後、新体育館で花の木祭でやる練習があった。6時間目が終わって順番に出て行ったが、教室に残ってしゃべっている人もいた。今日は私が注意をしなければならぬのに、みんなを出す前に自分が出てしまった。一日担任をやるだけでとてもくたびれるのに、毎日やっている先生はとても大変だと思った。

10月22日（火） 石川 昌樹

一日担任をやってみた。前にも僕は社会科の教師を少しやってみたが、教師というのはとてもつらいことである。一日で一番騒がしいのは帰りの学活のときだ。だいたい騒がしい人はいつも決まった人で、後ろを向いたり、横を向いたりして話している。特に離れた場所から話す相手にしゃべっている人の声がよく聞こえる。これでは、日直や室長の気持ちもわかってくる。特に教科の連絡の時はもっと静かにしてもらいたい。ぼくは朝の学活の時間に、「今日からでもよい。一学期にもどって、また始めからやり直そう。」と話したが、少しの人は聞いていなかったと思う。担任というのはつらいがやりがいのあるものだと思う。

10月23日（水） 磯部 智子

担任を一日やってみてよかったと思うが、大

変なこともあった。しかし、私にとってはとてもよい経験になった。うるさいときは、必ずきまった一部の人がしゃべっている。注意しても聞いてくれない時は頭にきた。こういう時にそれぞれの班の班長が先頭にたって注意してくれれば、とてもすばらしいクラスになるのではないかと思います。

10月24日（木） 阿部 信行

今日一日、担任をやって感じたことは、学活の時間など前に出てみんなを見るが、みんなの様子や行動が手に取るように良くわかる。うるさくしゃべっている人もいた。人が話しをしている時はもっと静かにすればいい。ぼくはあまり自分では担任らしいことをやらなかったと思った。それでもどんなことを言おうか考えてしまった。最後にみんなが協力すれば何でもうまくいくと思う。

10月26日（金） 内田 久美子

今日一日担任をやってみて少しは自分の勉強になったと思いました。前に立ってみると、いろいろ様子がわかり、しゃべっている人を見ると、私もあの人たちと同じだと思い、恥ずかしくなりました。と同時にこれからは、日直、室長などに協力をしないと良いクラスにならないと思いました。帰るときはやっと気持ちが楽になったように思いました。担任はとても大変な仕事だと今日一日やってわかりました。

10月26日（土） 杉本 誠

担任をやって大変だと思った。朝の学活のとき、前に出て何を話そうかまよった。早く学活の時間が終わればいいと思った。担任をやって少し勉強になった。いつもうるさいのが帰りの学活で、うるさい人がよくわかる。うるさくしないためには1年2組の全員が協力すればいいと思った。

10月28日(月) 大沢 幸子

一日担任をやってみて、担任の仕事は大変だと思った。朝、みんなの前で話をするときも騒がしく、いざ静かになるとなんとなく話しづらい。だから他の人が担任になっている時には気がつかなかったことが、今回担任をしてみてよくわかった。それでも先生のように毎日、担任をしてみなければ、本当によくはわからないだろう。1時間目の理科の時間、先生が出した問題をなかなかみんな納得できなかったのも、先生もずいぶん手こずらされていたみたいだし、国語の時間も同じようだった。だから担任になると、普段わからなかったことも、少しは分かるような気がした。だから、これからは騒ぐ方でなく、注意する方になって、担任を中心に協力したいと思う。

10月30日(水) 青木 通子

私もみんなと同じで、担任という仕事はとてもむずかしいと思いました。前に立っていると、とてもみんなの行動がわかります。私も一日担任をやる前は、その中の一人です。ちょうど今日は「花の木祭」で、みんなうれしかったようですが、ただその気持ちが、あやふやではいけないと思う。学活の時間なども、先週の目標が「学活の時間は静かにしよう」ということだったが、みんなは忘れている。うるさくしないためには、みんなの協力と努力が必要だと思う。

10月31日(木) 赤荻 等

ぼくも担任をやってみて、終りの学活が始まると、大変さわがしくなる。ぼくもさわいでいたが他の人がしゃべっていると、やはりうるさい。前で話をするとき、なんといっているかわからなかった。みんなが言うように、やはり学活の時間は、まじめにやってみようと思った。

11月1日(金) 菅野 直美

私は、担任をやってみて、担任の仕事は大変だと思った。みんなの前に行くと思ったように

しゃべれなくなってしまった。終りの学活のとき、いつもうるさいので、私が担任でないときも静かにしようと思った。全員が担任になって、担任が大変だということがわかって、終りの学活のときに静かになればいいと思いました。

11月5日(火) 長田 輝美

今日一日、担任としてみんなの先頭に立った。そこで一番感じたことは、みんなをひっぱっていくことは大変な仕事だと思った。私はみんなの前に立って何を話していいか、とてもまよいました。

終り学活の時間は、日直が「静かにしてください」と何回も何回も注意しているのに、みんなは話しに夢中なのかぜんぜん聞いてくれない。私も担任になる前は、いつも後ろを向いてしゃべっていて、日直の声が聞こえない時もあつた。私たちのいままでの行動を振り返って見ると、とても恥ずかしく思った。

11月6日(水) 伊集 盛一

今日担任になって感じたことは、担任はすごく大変だ。学活の時間、みんなを注意してもなかなか聞いてくれないのでとても困った。やっぱり学活の時間は静かにしようと思つづく思つた。

11月7日(木) 尾登 節子

今日一日、担任という仕事をやってみて大変だなあと思いました。朝の学活の時、「担任の話」と言われて、ドキッとしました。みんながうるさかったのも、二度も言いました。とても恥ずかしかった。早く一日が過ぎればといいと、そればかり思っていました。私は、生徒じゃダメだ、やっぱり本当の先生じゃなくては、と思いました。

11月8日(金) 菱沼 利道

今日、担任として感じたことは、前に立つとしゃべっている人やふざけている人がわかりま

す。今日は、学活の時間は別にうるさくなかった。これから学活の時間など静かにし続けていってほしい。

11月9日（土） 森木 智恵子

今日一日、担任という仕事をやってみた。そこで学活の時間に感じたことは、日直や室長、そして副室長の人が静かにさせようと注意しても、聞こうとするのはほとんどいない。だから担任よりも日直や室長そして副室長の方が大変じゃないかと思った。

11月11日（月） 米山 隆浩

今日、担任として感じたことは、学活の時間は室長が注意しても静かにしなかったのに、先生が来るととたんに静かになる。こういうことは今日だけでなく、かなりあるので、こういうことは止めてほしい。それに室長の注意もちゃんと聞いてほしいと思った。

11月12日（火） 水谷 光子

担任という仕事はむずかしい。学活の時間、注意をしてもなかなか聞いてくれない。もっとみんな協力しなければと思った。私も少々ふざけてしまったが、これからは気を付けて、みんながうるさいときも注意したい。

11月13日（水） 東海林 利洋

今日、担任ということをやってもよかった。やっぱり学活の時間がさわがしかった。室長という仕事も大変だと思う。静かにさせるという仕事を持っている。みんなもそれに協力して学活の時間は静かにやってほしい。

11月16日（土） 山本 広美

私は担任失格です。なぜなら担任であることをすぐ忘れ、注意さえろくろくしなかったからです。全体的な面としては、やはり診断テストが終わったばかりなのか、みんな気がぬけているようです。特に学活の時間が目立ちました。

もう一度やる機会があったら、今度はしっかりやりたいと思います。

11月18日（月） 藤村 功

とてもいい経験になった。担任というものはすごく大変だと思った。みんなを静かにさせなければならぬし。

一番うるさかったのは学活の時間だった。

11月19日（火） 渡辺 晴美

私は前々から大変責任の重い仕事だと思っていましたが、やってみて、それがよくわかりました。はっきり言って、あまりうまくできなかったと思います。学活の時間もモジモジして、うまく話せなかったり、みんなを少しも注意しなかったりで、私の一日担任は失敗したようです。今度機会があったら、今日の失敗を繰り返さないで、立派にやってみたいと思っています。

11月20日（水） 吉田 光一

やっぱり帰りの学活の時間がうるさい。うるさい人はきまってしゃべる。その声がよくひびく。室長の声がかるのは、むりもない。それに学活の時間、遅く始まって遅く終わる。なんか、それが2組の“オキテ”のようだ。そうじも遅くなると朝そうじだし、朝そうじでもきまって来ない人もいる。熱心にそうじをやればもっときれいになるはずだ。でも、それがなかなかうまくいかない。やっぱり自分でもっと気を付け、ごみを散らかさないようにしなければいけないし、もっと心をこめてやり、少しでもきれいにしたい。僕はそう思う。でも一人だけまじめにやっても、みんなが一緒にやってくれなければだめだ。2組は、もっと心をつにして、協力して、そうじも学活も速くできるようにしたいと思った。これからは今までとちがって、もっとまじめに行こうと思った。

11月21日（木） 秋葉 裕子

今日一日、担任をやってみて、担任って大変

だと思いました。みんなを静かにさせたり、朝の学活の時、挨拶をして、帰りの学活でも一所懸命にやっていかなきゃならないからです。特に帰りの学活が一番うるさかった。

でもいい経験になりました。

11月22日(金) 猪鼻 千尋

一日担任をやって感じたことは、後ろから見ただけではみんなの様子はわからないが、前から見ると、みんないろいろやっている。ふざけている人、机の中をいじっている人など、なんとなくにぎやかだ。学活の時間がうるさく、周りの人としゃべっている人がかなりいた。担任はずいぶんやりにくい仕事だと思った。

11月25日(月) 立石 和美

帰りの学活の時間がうるさくて、私の声がよく聞こえなかったようだ。おもしろかったけれど、やっぱり大変だと思う。みんな自分が担任の時はしっかりやっているけれど、他の人がなると、何だか無関心だ。私もそうだと思う。だから、これからは人の話をしっかり聞きたいと思う。

11月26日(火) 高木 勝

今まで43人の人が一日担任をしてきました。そして、その人たちがいろいろ言い、感じたことを記録してきました。でも言われたことをただ聞いただけで、何一つ守れていないと思います。せっかく担任としての立場になって注意などを述べてきたのに、逆の立場になった時は、自分の言ったことは守られていないと思います。だから、自分たち一人一人が言ったこと、記録したことを忠実に守れば、なお1年2組は向上できるはずだと思います。よくわきまえてほしい。

11月初めに並木弘君が担当した記録が残っていないのが残念だった。

5 40年前を振り返る(座談会記録)

2014年7月19日、40年前の横浜市立蒔田中学校1年2組の生徒6名にお願いして、神奈川大学の一室で座談会を開いた。今でも記憶残っている出来事、わが子を通してみた中学校の教育、情報化の進展と子ども、そして最近の“若い人”をどう見ているのか等を語って貰った。

【座談会記録】

司会 今日土曜日の午後の貴重な時間を提供して頂き、ありがとうございます。早速ですが、最初は40年前の1年2組について記憶に残っていることを話してください。卒業後も「土筆の会」で何度も会っていますが、お互いに関係することがあったらその都度話しに入って頂いた結構です。それでは男性からにしますか。

T M 思い出は沢山あるが、中学に入って不安だったときに先生から室長(学級委員)に指名され、どうして僕なんだろうと思ったのが最初。

室長になって、なんとなく自分の考えでやるようになったのは前期の終わりのころ。そんな中で昼休みに皆で遊んでいたボールが大岡川に入り、「室長だから取りに行け」と言われ、流しちゃいけないと思い、汚れた川に入って取りに行ったことを覚えている。

あとは先生が色々行事を考えてくれたが、中でも“鎌倉ハイキング”や子どもの国での“オリエンテーリング”を中心になって企画したことが一番かな。

3年生になるとときには先生が永田に移られ、後から思うと小中高を通して一番思い出が多い一年だった。

S H 珍しいことに1年生だけの分校で、木造校舎のL字型校舎だったというシチュエーションがよかった。2組は1組と1階の角で、他の10クラスは長い校舎の1.2階に位置していたと思う。

2組は、とにかくクラスメートと対話があった。今の教育は、何でも教え込もうとするが、当時は先生がハシリテーター的な役をして、皆が意見を出して対話ができたとと思う。遠足などの行事も皆の意見を通してまとめられ、実践していったということが成長につながった様と思う。しかも、それらを紙にまとめるという流れになっていたことが印象に残っている要素だと理解している。

HT 生徒のまとまりもあつたが、生徒と関わってくれる先生やよく見てくれる先生が多かったように思う。授業中も、先生をけしかけると「あんな短足には負けるか」「あんな年寄りには負けるか」と話しに乗ってくれたが、後から寺島先生と澤田先生は大学の先輩と後輩の関係で、こちらが先生の手の上でもてあそばれていたことが分かった。そんな風に授業中でも受け止めていてくれた。

部活動や体育祭で骨折事故があっても、またケンカがあっても、先生はそのままにしないでちゃんと後始末をしてまとめてくれていた。

あと一つ思い出すことは、高校を卒業した頃に、喫茶店で最初の『土筆の会』を持ったことだ。お店に入りきれないくらい集まって、企画した者として通路にいたことを覚えている。その後、関内で集まったことが2～3回あり、そしてクラスメートの小川君の葬儀の後から、よく集まるようになったと思う。土筆の会は、6～7年前に体調を崩して仕事を休んでいるときに住所録を整理してから、大きな集まりを定期的に行い現在に至っている。

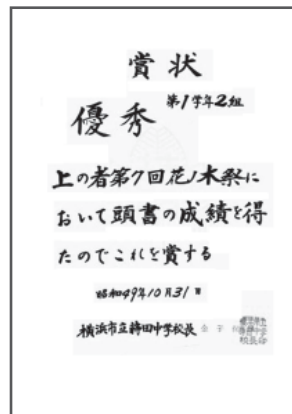
MN 私もT君と一緒に、何で私が副室長（学級委員）なの、という思いから始まった。

小学校と環境が変わり、行事もたつぷりあって、やらなければならないことも沢山あった。その上遠くて、バス定期を購入して通った。とにかく一生懸命通ったという思いがある。夏休みもサマースクールとかがあって、一年を通し

ていつも皆と一緒に過ごしていたように思う。それで協力し合うことも、自然に当たり前のようになったし、それぞれの個性を12～13歳なりに尊重し合っていたんだと思う。だから再会しても楽しく過ごせているのではないだろうか。

また、母に先生のことを話すと、今でもいろんなことを覚えている。先生と親たちとのつながりも深かったようだ。1年間の長さは同じなのに、特に中学1年の生活が印象の強い一年間だった。

YH 漠然と楽しかったと覚えている。その後何度も会って話しているから、どこまでが本当の気持ちだったかわからないけど、今でも花の木祭の賞状を持っているから、それが一番の印象かな。賞状も何



で先生が私にくれたのかわからなくなっているけど。学級の歌として花の木祭で歌った『ともだちの歌』は、小学校のときの先生は歌が大好きで教えて頂いた一つ。提案したら

皆がいいって決まった。「みんなの歌」のように絵もあるといいね」って言ったら「それならOHPでやろうよ」ということになり、絵も歌詞も2台のOHPでステージに映し出しての合唱になった。先生にも助けてもらったと思うが、自分たちが持っている知識や技術を出し合ってつくり上げたように覚えている。

あと学級新聞の「New Friend」を作ったこと。当時は「ガリ版を使うのは大人への一歩」と思えて、裏で先生がやっていたのかもしれないけど、編集も仲間内で話し合って作り上げた。中学1年生って、一番吸収し易い時期に先生が上手く誘導してくれたのではと思う。

先生はひとり一人を真正面から見てくれていたのではないかな。できる子だけが取り上げられるのではなく、“3分間スピーチ”とか“一日担任”とか皆が主役だったのでは。ドラマにしたら面白いほど一人ひとりが一話一話の主人公になっている。親の立場から見ると改めてすごいなーと思う。

TH 私は卒業後の土筆の会への初参加が後の方で、皆さんの話を聞いて、あんなこともこんなこともあったと思い出している。記憶が飛んでしまっていることが多いのだが、木造の校舎でトイレが怖かったことは覚えている。

前期の副室長さんから指名を受けて後期に副室長になったが、何をやったのかはあまり記憶にない。本を沢山読もうという図書委員の活動に協力して、一番沢山読んだ人にあげる賞品を買いに出かけたことは覚えている。とにかく、困った時にはいつも“ヤマちゃん”がそばにいてくれたことだけは鮮明に記憶している。今になって、多感な時期に支えてくれた友がいたということがありがたかったし、当時の先生はよく生徒の声を受け止めて導いてくれる存在だったと思う。

自分の子どもを通して学校にかかわることが多くなり、学校の先生がサラリーマン化したように感じ、一層そう思うようになった。

司会 親として感じたという話しが出ましたので、次に卒業後に出会った中学校、例えば我が子の中学校など、中学校の教育について見たり聞いたり思ったりしたことを自由の述べて貰うことにしましょう。

HT 自分の子どもが先生とどう接しているかということ、自分たちの時ほどお互いに個性を出していないのではと感じている。先生も強い意識を持ってやろうとすると周りから突かれたり、何か変わったことをすると親からクレームが来たりで、働きづらいのかなーという感じが

する。定型化してしまっているのかな。

子どもも、担任をしてもらっている時はけっこう仲がいいのに、隣のクラスになるともう口をきかない関係になっている。自分は土筆の会を楽しみにしている。それに触発され妻も中学3年生のクラス会をちょくちょく開いている。だから、子どもには、いつの学年のときでもいいから腹を割って話せるともだちを作れ、それが一生の友だちになるのだから、と言ってきた。今の子は、上っ面で喧嘩をし、上っ面だけで仲直りをしているようだ。そこが可哀そうかな。

MN 子どものことで一番びっくりしたのは、個人面談に行って、担任の先生が目の前に座っている子どものことには触れず、一般論のみを話していたことだ。自分の時は、家庭訪問もあり、学期ごとに面談もあって、どういう面を伸ばすといいですよと親と話していたのに、これはなんなんだと思った。幸い高校に入って良く見てくれる先生に出会えて救われた。また学童に通わせていたので、多くの先生に関わって頂いたので、色々な大人がいるんだなーと理解してくれたようでよかった。

私の時は、澤田先生がどの生徒や親とも結びついてくださっていただけに残念に思った。

ちょうどうちの子どもの時が教育改革の波の時で“ゆとり世代”と揶揄され、その子たちのせいではないのに別枠みたいにいわれ「こまったなー」と思っている。小学校は総合学習をいっぱいやってくれる学校で、いろんなところから先生方が来て勉強会をしていた。教科書だけでなく体験中心で、それはそれで本当によかったのだが、コロコロ教育制度が変わって、社会人になって大丈夫かな、と心配している。

YH だから、中学段階から私学に通わせて、土曜日にも勉強させて、という流れが強くなってきている。

私たちの時は、家庭科で運針をやったじやな

い。今の子は「作りたいものを持ってらっしゃい」って言われ、キットを持って行って作っている。だから、もともとのモノの成り立ちを分かっている。出来上がりは綺麗だが、布目を見て裁断するわけでもない。料理なんかもそうじゃなかった。

MN 野菜の切り方などの基礎はなく、何を作りたいかを皆で話し合っていて決めていた。そこまで話し合っていて、どうなっちゃうのと思った。調べ学習も、商店街に離されて「調べてらっしゃい」って、何をどのようにして調べるのかはなくて。親としてはとにかく不安だった。

YH 先生が、経験があつて“離す”のならいいけど、先生も若くて経験もないとなると、ね。

MN 率先して中心になっている先生はかなり勉強されているが、後からその学校に転勤して来られた先生だと、形から入ろうとしているようで、何かが違う。でも先生たちも夜遅くまで準備しているようで大変だし、難しかったんだと思う。

YH うちの子が小学生の時、通知票に未記入の教科があり、連絡したら「ああ、そうですか」って。気遣って目立たないように届けに行ったら、その場で数字を書き込んで「ハイ」って渡されたの。何かこっちが悪いことをしているみたいで気分が悪かった。先生も忙しくて、何か病んでいる人が増えているみたいに思う。

先生から座談会の連絡を頂いて、中学校の先生はどうあるべきかって考えてみた。小学校では人間として生きていく上での基礎的なことを教え、それに色付けするのが中学校の先生じゃないか考えた。小中学生のときに先生だけでなく、出会う大人によって子どもは変わってくるんだと感じた。

TH 私はPTA役員などを通して学校にかかわってきたが、学校の先生は極端だと思う。やる先生は本当に一生懸命向き合っていてくれるが、そうでない先生もいる。

YH 部活動でも先生によって全く違ってしまふ。うまく子どもをリードする先生もいれば、そうでない先生もいる。例えば運動会で「優勝を狙うぞ」といったとき、子どものための優勝ではなく、担任の先生がほかのどの先生よりも賞状が欲しかったりしている。生徒は熱いのが楽しいのに、頑張らないと先生に怒られるからって、クラスのためよりも先生のためになってしまっている。親だってやらない先生より熱い先生の方がいいから、見逃してしまう。

同じように、子どもが私物化されていると感じたことは部活動でもあった。自分の考えで活動する生徒ではなく、先生の思い通りに活動する生徒でなくてはならなくなっていた。

TM それが先生の業績になるからじゃない。先生の評価につながっているのかな。

司会 学校も情報化が進み、パソコンの使用が一般化していますが、課せられる文書類が増えて、先生は日々多忙を極めています。それがもとで、生徒の顔を見ているよりもモニターを見ている時間が多いという声も耳にします。今日は情報関係の仕事をしている人いますが、次に、情報化が進む社会での子どもを、どう見ているのか、聞かせてください。

SH 現在は情報伝達の方がものすごく加速度的に進んで、皆さんが子どものころに白黒テレビがカラーになったイメージの100倍くらいの速さで今の子どもたちを駆け抜けていっている。僕も仕事上で情報を扱っているが、ルーブル化が追い付いていないと思う。企業ではコンプライアンスと言われているが、コンプライアンスは会社を守ろうとするもので、外から自分の

ところを守るルールは一生懸命作るし存在するが、情報を扱う根本的なルールが無いと思っている。情報を子どもに提示するということのルールもない。

先ほど“ゆとり世代”が話題になったが、その世代の子たちを会社で見ていると、何かトラブルがあると、その報告には、トラブルがなぜ起こったのか、という原因究明や、どうしたら防げるのか、といった解決策などはほとんど見られない。やはり積み上げてきたコンセプトが合っていないというか、仕組みが分かっているように思う。

司会 今日、電車の中でベビーカーに乗っている幼児をスマホで遊ばせている姿を見ました。ひとり歩きができない子どもでもパネルタッチで遊ぶことに驚きました。情報が氾濫してしまっている中で、家庭ではどうしたらいいのか、皆さんの家庭で情報端末機を子どもに持たせた際のことなども交えて聞かせてください。

YH 家では買う前はルールがあったけど持ったら無視されましたよ。稲作ボランティアにも参加し、自然に沢山触れるように育ててきたつもりだが、ゲームに走ってしまった。あとは本人の自覚を待つしかない。

TM 家では、携帯は高校を卒業するまで持たせなかった。

MN 契約で制限をかけることを大学生の前まではやっていた。ただあんまり制限をかけ過ぎると周りの人と話しが合わなくなるので、困るようだ。

TM 周りと違ったり、情報についていけないのは嫌なようだ。

YH 制限をかけ過ぎると、用語の意味など

も調べることができなくなり、持っている意味がなくなってしまう。

HT 俺たちの時は、前の晩のテレビ番組を見ていないと話題についていけないことがあったが、今の子は、それがラインでありツイッターだったりしているのだと思う。情報を制限しようとするラインとかも引かかかってしまう。持っていないながらそれをやらないと持っていないのと同じになってしまう。そうすると使い方に気を付けて貰うしかなくなる。

YH スマホを持っているのはパソコンを持っているようなものだから、制限をかけると普通にやることができなくなるって言われた。

TM そうやって情報のやり取りも速いし、数も多い。仲間同士でルールを作って使っているが、変なルールを作り、いじめの原因にもなっている。ルールの作り方も分かっていないように思う。

YH 携帯だからって、すぐに返事を返さなきゃいけないなんておかしい。いつもそばに置いときゃならないなんて変だし、年がら年中連絡が取りあえるのも変だ。

TM 大人の社会がそうになっている。会社の緊急連絡は個人携帯になっているからいつも持ち歩いている。

HT ちょっと前に関西の市で、教育委員会の主導だったかで、夜9時以降は子どもに使用させないということを決めたら、親もそれを理由に注意するし、子どもも決まりだからって言い訳ができるとかで評価されていたと思う。そういう風に大人が社会としてどうするか決めてあげないと。子どもだけでは多数派に流されて自分の意図しないところに行ってしまうことの方が多と思う。

SH どこかの中学か高校で、全員で一週間、携帯やスマホを親に預けて、止めてみよう、としたら、生徒が「気が楽になった」っていう感想も多かったそうだ。

MN やり取りが一度で終わらないし、どこで止めたらいいいのか気を使うし、いつ連絡が来るか気にしていなくてはいけないから、集中力は常に分散していると思う。それが無くなって「気が楽になった」と言っているのでは。

小学生の間では“妖怪ウォッチ”が流行っているらしい。自分の悩みを妖怪君が答えて解決してくれるサイトらしいが、これを分析した人は、人間関係の大変さが低年齢化していると言っている。

YH 自分で解決する能力を身に付けなくてはならないのに、妖怪さんに解決してもって変な方向に行かなければいいけど。

MN 大人でもどこで切っていいのかわからない時がある。この文章で理解してもらえないかという不安もある。

TH 一つの表現でも相手の取り方次第では全く違ってしまうことがある。同じ言葉を文字で表してもこっちの意図と違って取られてしまう。そんな意味じゃないのに、ということがある。

司会 予定した終了時間が迫っていますが、最後に勤め先などで見ている最近の“若い人”をどのように見ているのか教えてください。

TM 自分が努めている会社では3年ぶりに新入社員を迎えたが、院卒の人でも会話が難しい。何が主語なのか分からない時や言葉がすぐに返ってこないことがある。「エッ」とか「ウッ」とか何を言いたいのか分からない。言葉のキャッチボールができない。コミュニケーション

ン能力に欠けているのかな。

HT 最近の“若い人”は冷めているような気がする。お酒も煙草もやらないし、飲み会をやってコミュニケーションをとるようなこともしない。時間があるからといって本を読むわけでもないようだ。かといって車に興味があるようでもない。

SH 今の時代は自分たちの若いころに比べてモノが溢れている。生まれながらにして携帯やパソコンもあり、自分もこんな時代に20代だったら、車なんかもいらなくていいと思うかも。

YH 何かに“百金”が世の中を駄目にしたと書いてあったが、昔はモノを直して使っていたけど、今は100円だから買い換えればいいと思うようになっているという。自分たち大人がそうなのだから、モノを大切するお手本にはなっていないと思う。

SH 昔は洋服って高かったけど、今はTシャツも4～500円で買い換えることができるからね。

そういえば会社の若い人に「仕事がおもしろいか」と聞いたら、「仕事って面白いって感じるんですか」って逆に聞き返された。「面白いから続けているんだろ」って答えたら「そうなんですか」って言われてしまった。

YH 私なんかのやっている仕事は、今の若い人から見たらつまらないかもしれないけど、私は、昨日よりも今日が上手くいったら嬉しいし、それを褒めて貰ったりしたらテンションが上がるのに。

HT ここ5～6年前は大卒の就職難の時代だと思うが、うちの会社も一部上場で競争率も結構高くて、それを掻い潜って入社してきた人も、入社して配属された時は「早く一人前に

なって」とか「ご指導ご鞭撻をお願いします」なんて挨拶するが、自分から“ご指導”を求めたりはしない。普段話していると仕事に対する意欲も感じられない。ブライドは高いようだけど、「自分に自信はないの」って聞いたら「別に」っ返ってきた。「就職難を乗り越えて入ってきたんだし、入りたくても入れなかった者もいるのだから、この会社で技術を磨いて上になろうとか考えないの」って聞いてみたら、「食べていけばいい」という。何か欲がないというか、感情がないみたい。

YN 悪いことがあってもそれを肥やしにして這い上がってやろうとする姿は、今の“若い人”には見られないよね。

MN 私の職場にも「公務員になれてよかった」という“若い人”がいる。いろんな仕事がある中で、どんなことをやりたいのと聞いたら、それは無くて、以前勤めていた民間の会社が大変だったので「逃れるため逃走心で入りました」なんて言っている。それで仕事の様子は特に熱意があるようでもなく、上司に強く言われると一時は神妙になって「改善します」なんて言ってるけど、変わらない。変えないことに自信があるみたい。いろいろ言われても動じないっていうか、マイペースっていうか。私たちの世代とは明らかに違うと感じている。

TH 私は、子どもに自分で決めたことは最後まできちんとやりなさい、と言い続けている。

SH やり続けることって、大事だよな。そういえば、お父さんがリストラにあって、会社は悪いところで、楽しむところなんかではない。という“若い人”に出会ったことがある。これも一つの時代なのかなー。

司会 最後に難しい問題を提起して頂きましたが、続きは場所を代え懇親会場で聞かせて

ください。今日はありがとうございました。

6 おわりに

13歳児の記録は、40年の月日を経ても私にその姿を思い出させてくれる。彼らの多くは、級友の姿を見て自分を正そうと記録している。そうすることでもっとよい学級になるとも記している。そして、40年を経て開いた座談会では、しっかりした考えを持って自分を主張していることに安堵感を覚える私がいる。

この活動報告が、教育実習に臨む学生の学校理解、生徒理解の一助になることを願っている。

さて、“中1ギャップ”をも感じさせず、キラキラした瞳で“ともだちの歌”を口ずさんでいた彼らは、40年後、自分の13歳のときの文章をどのように読むのか、次の土筆の会で聞いてみたい。

ともだちの歌

1ある年の夏の海で 僕らはしりあったのさ
燃えるような太陽が 二人をともだちにした
青い海白い砂浜 空はすみわたり
僕らは瞳を輝かせ たくさんの話しをした
※いつの日もほがらかに 元気よく歌おう
離れていても心は一つ 僕らはいつも仲間さ

2毎日が素晴らしくて 朝は朝日の歌を
夜は夜で星たちと 波の歌を聞いていた
つかまえた魚のことで 二人はけんかして
口もきかずにいたけれど すぐに仲直りをした
※繰り返し

3夏の日に終りが来て 僕らは別れたけれど
来年の夏が来れば あの浜辺で落ち合おう
冬が来て春が過ぎたら やがて夏になる
お互いに一年たって 僕らはまた握手する
※繰り返し

【資料③】

昭和49年度 横浜市立蒔田中学校1年2組 の主なできごと

4月		
日	曜日	
5	金	入学式・学級懇談会(PTA学級委員決定:平野さん秋葉さん)
6	土	対面式・オリエンテーション
8	月	生徒会役員決定 <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;"> 校風委員 平野 図書委員 山崎 保健委員 長田 整美委員 桜木 学級会計 大貫 池田 選挙管理委員 横山 </div> <div> 室長(高木) 副室長(松原) 生活班、班(◎)班長 ○副班長 下線は女子 1班◎大貫・○小川・石川・中村・秋山・伴 2班◎阿部・○松原・東海林・菱沼・青木・秋葉・尾登 3班◎大澤・○平野・藤村・吉田・池田・渡辺 4班◎高田・○山崎・杉本・片吉・山本・花輪 5班◎倉田・○桜木・並木・横山・小沢・菅野 6班◎茂木・○長田・野辺田・米山・磯部・内田 7班◎水谷・○高木・赤荻・伊集・高橋・森木 </div> </div>
9	火	身体測定
10	水	部活動紹介
12	金	各班による係の仕事決定 知能検査 教科学習係決定
17	水	生徒会専門委員会(役員・年間計画)
19	金	クレペリン検査
22	月	部活動登録日 ジャージ販売
23	火	学年校風委員会 遠足の時の規則について 学年保健委員会 遠足の時の健康安全について 学年整美委員会 遠足の時のゴミの始末について
26	金	三浦半島城ヶ島遠足
27	土	全校評議会(49年度予算案) ※3時間目の前、桜木君救急車搬送
30	火	部活動父母(保護者)会
5月		
日	曜日	
4	土	開校記念日 学級通信「土筆第2号」発行
8	水	第6回全校評議会 49年度予算 壁新聞コンクールについて 文化祭行事について
10	金	※知能検査(4/10欠席者 池田さん) ※体操部練習中に秋山さん骨折
11	土	第1回学級企画会(朝の学活の使い方) PTA総会
13	月	歯牙検査 家庭訪問(永田町方面)
14	火	家庭訪問(堀之内・蒔田町方面)
15	水	家庭訪問(南太田・井土ヶ谷・清水ヶ丘方面)
16	木	※秋山さんのお見舞いに行く
20	月	代議員大会 49年度予算案可決
21	火	第2回図書委員会 図書委員会の仕事について
22	水	第2回学年評議会 専門委員会の仕事について 第2回学年保健委員会 虫歯予防のポスターについて 第2回学年整美委員会 学級花壇について 第2回学年校風委員会 6月の目標について 少年消防クラブ員決定(野辺田君 中村君)
27	月	図書委員会アンケート実施(読書実態調査・忘れ物調査開始(グラフ記入))
28	火	内科検診 家庭学習アンケート実施
29	水	第3回学年評議会 清掃を活発にするには 第3回学年校風委員会 年間目標、今週の目標について
30	木	クラブ活動オリエンテーション
31	金	壁新聞コンクール特別委員・編集委員決定 ◎高橋・伴・花輪・渡辺・菱沼

4/5「土筆」第1号発行
「入学おめでとう
初心忘れるべからず」

5/8「土筆」第2号発行
「リズムある生活を！」

6月		
日	曜日	
3	月	生活調べアンケート実施(小遣い使徒・TV視聴時間)
5	水	学級調査アンケート実施
6	木	第1回クラブ活動
7	金	X線撮影
10	月	蘇武玉枝先生教育実習開始
12	水	第2回学級企画会(忘れ物をなくし学習をするために) 第3回学年図書委員会(アンケートについて) 第3回学年保健委員会(欠席記入グラフについて) 第4回学年校風委員会 全校整美委員会
13	木	第5回学年評議会(水道の前の清掃、すのこについて) 第5回学年校風委員会(忘れ物調査の集計)
14	金	第6回学年評議会(水道の掃除について)
15	土	壁新聞「New Friend」第1号完成記念パーティ
17	月	第7回学年評議会(水道の掃除の分担について) 授業参観(5校時 数学) 学級懇談会(30名参加) 学級通信「土筆第3.4.5.6号」発行 緊急連絡網できる
18	火	壁新聞コンクール(審査:賞に入らず) 第8回学年評議会(球技大会について)
19	水	第9回学年評議会(球技大会種目、特別委員会について)
24	月	蒔田町方面学級懇談会(16:00～桜木君宅) 第4回学年整美委員会 第4回学年図書委員会
26	水	第1回球技大会特別委員会(日時、ルール説明) ※室長、副室長も参加(橋爪先生がルール説明) 第5回学年整美委員会(一週間の点検活動について)
28	金	PTA地区別懇談会

6/17「土筆」第3号発行
「意外に少ない漫画っ子」

6/17「土筆」第4号発行
「テレビも勉強も1～2時間」

6/17「土筆」第5号発行
「それでも家庭学習は必要」

6/17「土筆」第6号発行
「緊急連絡網」

7月		
日	曜日	
1	月	第3回学級企画会
3	水	第10回学年評議会(球技大会の応援について)
5	金	第11回学年評議会(評議会の在り方について) 第11回学年評議会(評議会の在り方について) キャンプ参加生徒父母(保護者)会(13:30 新体育館)
6	土	第12回学年評議会(球技大会の応援の仕方について)
8	月	球技大会審判講習会
9	火	第13回学年評議会(球技大会での各委員会の仕事について) 第6回学年整美委員会 第6回学年校風委員会(身だしなみの調査について)
10	水	第14回学年評議会(球技大会での整美委員会の仕事について) キャンプ参加生徒打ち合わせ
12	金	球技大会(雨天のため中止)
13	土	第15回学年評議会(夏休みの過ごし方について)
17	水	低視力者の親と子のスライド鑑賞会 第16回学年評議会(一学期の反省)
18	木	個別懇談会
19	金	個別懇談会
22	月	学校キャンプ(山中湖) 男子13名、女子17名参加 〔 〕バンガロー番号 ○班長 ○副班長 男子3班[D2-13] ○阿部 ○片吉、菱沼、杉本、高田、茂木、中村 男子4班[C-57] ○米山 ○桜木、野辺田、赤荻、並木、伊集 女子3班[D-17] ○小沢 ○山本、伴、大沢、倉田、青木、池田、渡辺 女子4班[D-16] ○高橋 ○森木、菅野、花輪、松原、秋山、山崎、内田、長田
24	水	サマースクール開始
25	木	サマースクール開始 26(金)、27(土)、29(月)、31(水)
26	金	永田町方面学級懇談会(赤荻さん宅)
31	水	学級招集日(小沢真寿美さん転校の送別会・バレーボール大会)

7/18「土筆」第7号発行
保護者個別懇談会資料
「一学期をかえりみて」

8月	
日	曜日
1	木
16	金
30	金

サマースクール
全校登校日
学級招集日

10(土)、13(火)、22(木)、23(金)、24(土)、25(日)、27(火)、28(水)

9月	
日	曜日
2	月
6	金
7	土

二学期始業式
第17回学年評議会(体育祭スローガンについて)
班替え

生活班決定 (◎班長 ○副班長 下線は女子)
1班 ◎小川・○山本・高田・伊集・立石・伴
2班 ◎山崎・○米山・阿部・東海林・長田・森木
3班 ◎平野・○大貫・片吉・高田・秋山・花輪
4班 ◎磯部・○大沢・高木・並木・横山・秋葉・萱野
5班 ◎茂木・○高橋・野辺田・藤村・青木・渡辺
6班 ◎石川・○水谷・中村・菱沼・猪鼻・池田・内田
7班 ◎松原・○桜木・杉本・赤荻・尾登・倉田

9/3「土筆」第8号発行
「思い出の夏休み」
「行く人 来る人」

9	月
10	火
11	水
13	金

全校評議会(体育祭スローガン、応援団の援助費、競技大会について)
大掃除
第4回学級企画会
避難訓練
第18回学年評議会(体育祭ポスターについて)
第7回学年校風員会(今月の目標)
体育祭練習(5～6校時/分校グラウンド) 応援練習
体育祭諸係打ち合わせ

9/11「土筆」第9号発行
「新しい班で再出発 班長
留任は茂木君一人」

会場用具(桜木、高木) 3年1組
採点掲示(山崎) 図書室
進行召集(平野) 3年2組
救 護 (長田) 保健室
応援団(小川、石川、横山、高田)

18	水
19	木
20	金
24	火
25	水

体育祭練習(5～6校時/本校グラウンド)
体育祭練習(3～4校時/本校グラウンド)
体育祭予行練習
体育祭前日準備(雨)
体育祭 (学年総合3位 14点)
※並木君、「めぐり逢い」で転倒、左腕骨折

男子
女子

100M 菱沼、片吉
200M 高田、野辺田(1位)
1500M 石川(4位)
800MR 平野、猪鼻、横山、桜木
60M 大貫(2位)、松原(2位)
100M 大沢(2位)、水谷(1位)
400MR 長田、高橋、内田、花輪

30	月
----	---

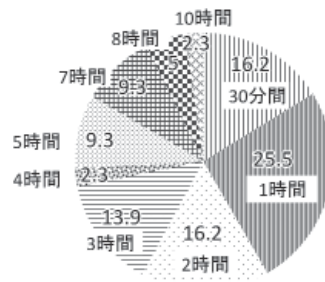
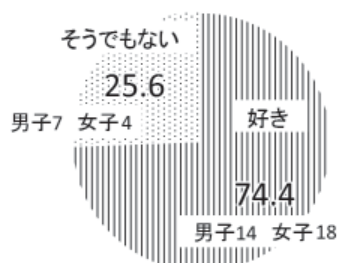
全校評議会(花ノ木祭について)

図書委員のアンケート結果 (s 50. 2. 17NEW FRIEND 第8号から)

あなたは本を読むのが好きですか (%)

主にどんな本を読みますか (%)

1週間に平均して何時間ぐらい読書に時間を費やしますか (%)



10月

日 曜日

1 火

「一日学級担任」開始

6 日

日曜授業参観(36名参加)

7 月

代休

8 火

第8回学年校風委員会(今週の目標)

9 水

全校評議会(花の木祭について)

11 金

第5回学級企画会(花の木祭について)

12 土

花の木祭実行委員会(高木くん出席)

10/6 「土筆」第9号発行
「日曜参観授業懇談会資料」
「生徒意識調査結果」

【花の木祭日程】

14(月) 学年評議会(12:40)
球技大会特別委員会(15:20)
15(火) 球技大会特別委員会(12:40)
18(金) 学年評議会(12:40)
19(土) 学年評議会(8:00)
21(月) 学年ステージ練習
22(火) 球技大会特別委員会(メンバー表提出締切)
23(水) 球技大会係員打ち合わせ(主審 12:40)
24(木) 球技大会係員打ち合わせ(副審 12:40)
25(金) 球技大会係員打ち合わせ(線審 12:40)
26(土) 学年評議会(13:00)
28(月) 球技大会審判講習会
29(火) 前日準備

14 月

相磯和美先生教育実習開始

15 火

残留許可カード使用開始

18 金

第4回学年保健委員会

23 水

第9回学年校風委員会(今週の目標について)

25 金

美術の三浦先生の作品が日展に入選

28 月

「一研究」搬入 ～29日(火)

30 水

花の木祭(学年ステージ)

優秀賞受賞

【発表内容】

歌(影絵付)「大きな古時計」 責任者:山本

【係】場 面:水谷 OHP操作 絵

下書き:山本 高田・猪鼻 赤荻・青木

ピアノ伴奏:山崎 桜木・吉田 松原・高木

指 揮:高橋 長田・内田 菅野・尾登

字 幕:大沢

最優秀賞 4組 233点
優秀賞 9組 217点
優秀諸 2組 210点
優秀賞 11組 210点

31 木

花の木祭(展示見学)

【一研究努力賞】

(国語)山本

(社会)倉田・池田

(数学)山崎

(美術)松原

(英語)大沢・長田・内田

NEW FRIEND 第3号発行
「学級組織 新たに決まる」

11月

日 曜日

1 金

花の木祭(球技大会)

男女とも予選リーグ敗退

6 水

インフルエンザ予防接種

7 木

第11回学年校風委員会(今月の目標)

8 金

第12回学年校風委員会(朝の巡回について)

生徒会委員選出(後期)

11/2NEW FRIEND 第4号発行
「クラスニュース
鎌倉ハイキング」

室長(阿部) 副室長(高橋)

校風委員(小川)

整美委員(吉田)

保健委員(池田)

図書委員(山本)

会計(倉田・内田)

11月

日 曜日

11	月	学級バレーボール大会
12	火	スキー教室参加生徒打ち合わせ(旧体育館)
13	水	第13回学年校風委員会(今週の目標)
14	木	第5回学年保健委員会(視力の検査について)
15	金	横浜市診断テスト
19	火	横浜市診断テスト
21	木	第24回学年評議会
22	金	第14回学年校風委員会(今週の目標)
24	日	第25回学年評議会(ベルが鳴ったら席に着いて学習を始めるには) 全校評議会 生徒会選挙立候補者打ち合わせ
26	火	S→T検査
28	木	鎌倉ハイキング (PTA学級委員の平野さんが引率のお手伝い)
30	土	歯の巡回指導
		生徒会役員選挙立会演説会 5～6校時 新体育館
		生徒会役員選挙投票日 1校時 会議室

11/30NEW FRIEND 第5号発行
「一日担任全員終了、今度は
三分間スピーチ」

12月

日 曜日

2	月	学年PTA講演会 講師:金子保雄校長 演題「ごいっしょに学校と家庭の教育を考えましょう」
3	火	ストープ委員決定 (桜木・吉田・石川・野辺田)
4	水	ストープ委員会(1年2組)
5	木	スキー教室参加者健康診断 全校評議会(中間会計報告)
9	月	第5回学年図書委員会
10	火	スキー教室参加生徒父母(保護者)会 (1時30分～ 新体育館)
11	水	第6回学年保健委員会
12	木	一日授業参観日
13	金	第26回学年評議会(学習の態度について) 避難訓練(火災) 第2回スキー教室講習会
17	火	第15回学年校風委員会 学級保護者懇談会
18	水	学年集会(映画:シンナーのおそろしさ)
19	木	第3回スキー教室講習会
21	土	第27回学年評議会(冬休みの過ごし方について)
23	月	大掃除
24	火	二期修了式
25	水	
28	土	スキー教室(志賀高原)

12/7NEW FRIEND 第6号発行
「始業ベルがなったら すぐ自
習をはじめるにはどうしたらよ
いか」

12/17「土筆」第10号発行
「学級懇談会(父母会)資料」
「二期をかえりみて」

1月

日 曜日

8	水	三学期始業式
9	木	新年会(班別ゲーム大会)

1位 3班
2位 6班
3位 2班 7班

ゲーム	1班	2班	3班	4班	5班	6班	7班
オセロ	4	5	6	7	2	3	1
囲碁	5	4	6	3	2	1	7
将棋	2	4	7	4	2	6	2
トランプ	7	2	6	1	4	3	5
百人一首	3	6	5	2	1	7	4
かるた	1	3	5	7	2	6	4
すごろく	2	4	1	3	7	6	5
得点合計	24	28	36	27	20	32	28

※得点 1位7点～7位1点

1月

日	曜日
---	----

10	金
----	---

校内書き初め展

金賞	阿部
銀賞	秋山・山崎
銅賞	大沢・茂木・猪鼻

16	木
----	---

第28回学年評議会

17	金
----	---

第6回学級企画会(班替え)

1班◎茂木・○大沢・菱沼・f渡辺
2班◎桜木・○松原・吉田・秋山・杉本・尾登
3班◎猪鼻・○内田・高田・菅野・長田
4班◎小川・○池田・中村・東海林・米山・倉田・高橋・森木
5班◎山崎・○安部・青木・水谷・藤村・野辺田
6班◎平野・○大貫・石川・磯部・赤荻・秋葉・横山
7班◎高木・○山本・伊集・花輪・伴・並木

21	火
----	---

歯の巡回指導

※横浜市教育文化センターで市内中学生書き初め展開催(23日まで)

阿部君の作品が一年生の代表として出展

23	木
----	---

第29回学年評議会

24	金
----	---

登下校の際は「名札」をはずすことに決定

28	火
----	---

第17回学年校風委員会

29	水
----	---

校舎爆破予告電話

グラウンドに避難、3校時で放課

30	木
----	---

第30回学年評議会(ストーブのいたずらについて)

※横浜市立中学校美術展(横浜市教育文化センター)

入賞 阿部・松原・山崎

2月

日	曜日
---	----

5	水
---	---

ストーブ委員会

6	木
---	---

第31回学年評議員会

12	水
----	---

生徒会専門委員会

13	木
----	---

第32回学年評議員会

2/17NEW FRIEND 第8号発行
「現代っ子は本がきらい？」

3月

日	曜日
---	----

11	火
----	---

第28回卒業式

学級懇談会

13	木
----	---

神奈川県アチーブメントテスト

14	金
----	---

神奈川県アチーブメントテスト

16	日
----	---

「こどもの国」でレクリエーション
オリエンテーリング結果

1位 (55分30秒)	猪鼻・茂木・秋山・大貫
2位(1時間4分30秒)	小川・高木・水谷・青木
3位(1時間18分40秒)	高田・磯部・秋葉
4位(1時間18分50秒)	阿部・杉本・倉田・池田
5位(1時間20分15秒)	松原・山崎・横山・平野
6位(1時間26分35秒)	石川・並木・長田・内田
7位(1時間36分55秒)	米山・吉田・菅野・尾登
8位(1時間49分00秒)	花輪・伴・菱沼・東海林
9位(1時間50分45秒)	赤荻・伊集・山本・高橋
10位(2時間12分00秒)	片吉・中村・渡辺・立石